

◎景気ウォッチャー調査[2024年1月]

2024年1月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.9ポイント下回る45.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「着実に値上げの影響が出てきており、客のついで買いが減少している。」(コンビニ)、「人出がすごく少ない。また、来客数も非常に減少している。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.2ポイント下回る43.4となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「大口案件の納期が先送りとなり、納期のひっ迫感がなくなったため、基準外労働時間が減少している。」(窯業・土石製品製造業)、「引き続き、取引先の生産調整等により装置関連の受注量が減少していることに加え、年始に発生した能登半島地震の復旧に資材等が集められていることから、部材の受注停止や価格高騰が発生している。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を6.1ポイント下回る50.0となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの50.0となった。

	1月	12月	前月差
合計	45.4	50.3	-4.9
家計動向関連	43.4	48.6	-5.2
企業動向関連	50.0	56.1	-6.1
雇用関連 (参考値)	50.0	50.0	0.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を3.9ポイント上回る53.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「3月以降の予約数は客室単価及び販売室数において高水準となっている。」(都市型ホテル)、「卒業や入学のシーズンを迎え、人々の気分が明るくなることから、景気はやや良くなる。」(商店街)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.6ポイント上回る52.6となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新規の受注量が低迷しており、当社が事業運営している分野においては、良くなる見通しが当面立たない。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.2ポイント下回る50.8となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「人手不足の長期化に加えて、派遣社員の定着率悪化や自社の正社員のベースアップなど複数の要因により、派遣社員の賃上げを了承する企業が増加してきた。」(人材派遣会社)、「4月までは転職市場が活発になるため、求人数及び求職者数も伸びる傾向にある。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.6ポイント上回る60.9となった。

	1月	12月	前月差
合計	53.1	49.2	3.9
家計動向関連	52.6	47.0	5.6
企業動向関連	50.8	53.0	-2.2
雇用関連 (参考値)	60.9	56.3	4.6